

環境経営レポート

2024 年度

活動期間 2024 年 10 月～2024 年 12 月（トライアル）

作成日：2025 年 1 月 16 日

【2025 年 2 月 13 日 修正版】



© 株式会社イーシーサービス

目 次

1. 事業概要
2. 環境経営方針
3. 環境経営目標の実績・取組内容とその評価
4. 環境経営計画の実績・取組内容とその評価
5. 環境関連法規
6. 実施体制
7. 次年度の環境経営目標
8. 次年度の環境経営計画
9. 代表者による全体評価と見直しの結果



1. 事業概要

・組織の概要

事業者及び代表者氏名	株式会社イーシーサービス 代表取締役 土田 敏之
所在地 事務所及び事業場	〒018-0435 秋田県にかほ市中三地字中山 28 番地 7
電話番号 ファクス番号 E-mail ホームページ	0184-36-2789 0184-36-3050 ecs@ecs-nikaho.co.jp https://www.ecservice.jp/
事業の内容	産業廃棄物処分業(詳細別表) 産業廃棄物収集運搬業(〃) 再生品の販売
会社設立年月日	平成 29 年 12 月 13 日
資本金	2000 万円
事業年度	毎年 1 月～12 月
会社沿革	平成 29 年 株式会社イーシーサービス設立 平成 30 年 産業廃棄物収集運搬業許可取得 (秋田県他 5 県) 令和元年 産業廃棄物処理施設設置許可取得 (木くずの破碎施設) 令和元年 産業廃棄物処理施設設置許可取得 (がれき類の破碎施設) 令和元年 産業廃棄物処分業許可取得(破碎) 令和元年 解体工事業登録 令和 2 年 古物商許可取得 令和 4 年 産業廃棄物処理施設設置許可取得 (木くずの破碎施設 移動式併用)
エコアクション 21 対象活動	産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 (破碎) 再生品の販売
エコアクション 21 認証・登録の範囲	全組織

環境管理責任者	代表取締役 土田 敏之
環境管理事務局	業務部主任 進藤 牧恵
従業員数	9 名
所有設備	木くずの破砕機 処理能力 240.0t/8h 木くずの破砕機（移動式） 処理能力 200.0t/8h がれき類の破砕機 処理能力 210.4t/8h 廃プラスチック類の破砕機 処理能力 1.99t/8h
所有重機等	油圧ショベル HB-200 油圧ショベル PC-120 油圧ショベル SH-200 ホイールローダ WA-100 フォークリフト FH-40
所有車両	大型ダンプ 車両総重量 24,990kg 中型脱着装置付コンテナ専用車 車両総重量 7,955kg 中型キャブオーバ(移動式クレーン)車両総重量 7,975kg 中型キャブオーバ(移動式クレーン)車両総重量 6,075kg 営業車

・産業廃棄物処分業の概要

産業廃棄物処分業の許可内容	秋田県	00525204110 号
許可年月日 令和 6 年 12 月 12 日	許可の有効期限 令和 11 年 12 月 11 日	

施設の概要	処理能力	産業廃棄物の種類	施設の許可番号
木くずの破砕施設	240t/8h	木くず	由福環-1267
		繊維くず	
木くずの破砕施設 移動式併用	200t/8h	木くず	由福環-1747
がれき類の破砕施設	210.4t/8h	がれき類	由福環-1268
廃プラスチック類の 破砕施設	1.99t/8h	木くず	許可対象外
		紙くず	
		繊維くず	
		廃プラスチック類	

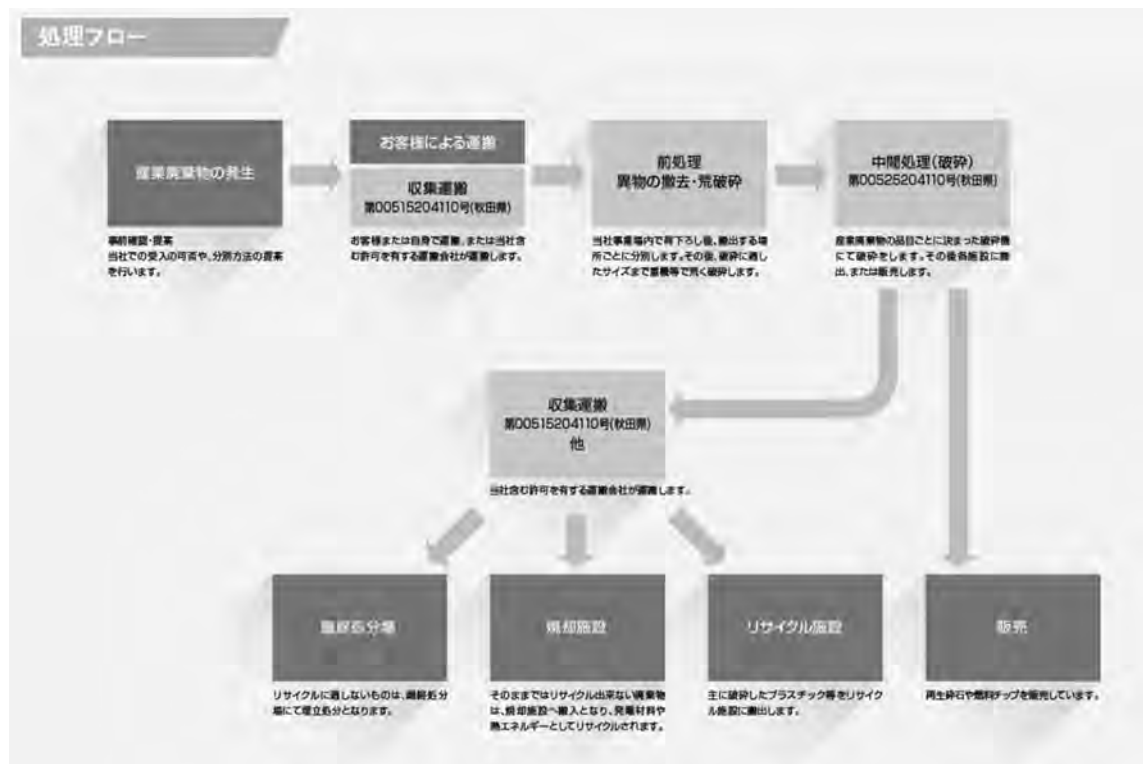
・産業廃棄物収集運搬業の概要

産業廃棄物の種類	秋田県	青森県	岩手県	山形県	宮城県	新潟県
燃え殻	－	○	－	－	－	－
汚泥	○	○	○	○	○	○
廃油	－	○	－	－	－	－
廃プラスチック類	●	●	●	●	●	●
ゴムくず	○	○	○	○	○	○
金属くず	○	○	○	○	○	○
ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	●	●	●	●	●	●
鉱さい	－	○	－	－	－	－
がれき類	●	●	●	●	●	●
ばいじん	－	○	－	－	－	－
紙くず	○	○	○	○	○	○
木くず	○	○	○	○	○	○
繊維くず	○	○	○	○	○	○
積替・保管施設	○	－	－	－	－	－
保管上限	32.5m ³	－	－	－	－	－
保管高さ	2.4m	－	－	－	－	－
許可の有効年月日	R10.10.23	R11.3.27	R11.3.10	R11.3.11	R11.5.8	R11.1.15
許可番号	00515 204110	00201 204110	00300 204110	00609 204110	00400 204110	01509 204110
○：許可あり ●：許可あり（石綿含有産業廃棄物を含む） －：許可なし 水銀使用製品産業廃棄物または水銀含有ばいじんは除く。 特別管理産業廃棄物であるものを除く。						

・ 事業実績

売上高 2023 年度	145,933 千円
産業廃棄物受託数量 2023 年度	8426.89t

・ 産業廃棄物処理フロー図 （弊社 HP より）



2.環境経営方針

株式会社 イーシーサービス

環境経営方針

〔基本理念〕

私たちは、企業活動を通じて環境負荷の低減に向けた活動を、積極的かつ継続的に行い、地域の環境保全に積極的に取り組んで行きます。

〔行動指針〕

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 受託する産業廃棄物の、数量当たりの二酸化炭素の排出量を把握し、単位当たりの削減目標を定めて達成に努めるとともに継続的な改善を図ります。
3. 当社での使用物品・事務用品等グリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。
4. 全社員に環境経営方針を周知徹底し、継続的に環境教育を実施することにより環境保全意識の向上に努めます。
5. 行政機関や環境団体等に協力をして、地域の環境保全活動に参加していきます。
6. 環境に関する情報を公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。

この方針を全社員に周知徹底し、環境に関する意識の向上を図るとともに行動指針を具体化するための環境経営目標と活動計画を設定し、定期的な見直しと環境経営システムの継続的改善を図っていきます。

令和6年8月16日

株式会社 イーシーサービス

代表取締役社長 土田 敏之

3. 環境経営目標とその実績・取組内容とその評価

目標と実績について

基準期間：令和 5 年 10 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日

集計期間：令和 6 年 10 月 1 日～令和 6 年 12 月 31 日 （トライアル集計）

No.	環境目標項目	前回実績値	単位	環境目標	今回実績値	結果	評価
1	二酸化炭素全量	56,346	Kg-CO ₂	2%削減する	62,881	+11.6%	×
2	電力使用量	6,362	kWh	30%増加に留める	9,155	+43.9%	×
3	ガソリン使用量	522	L	3%削減する	464	-11.11%	○
4	灯油使用量	981	L	2%削減する	536	-45.36%	○
5	軽油使用量（車両）	7,527	L	3%削減する	8,765	+16.44%	×
6	軽油使用量（工場）	11,730	L	3%削減する	12,995	+10.78%	×
	軽油使用量（合計）	19,257	L	3%削減する	21,760	+12.99%	×
7	LPG 使用量	2.5	m3	1%削減する	2.6	+3.84%	×
8	一般廃棄物排出量	60	kg	5%削減する	80	+25.00%	×
9	受託した産業廃棄物のリサイクル率	94.42	%	1%向上する	94.83	+0.41%	×
10	上水使用量	7.0	m3	1%削減する	6.0	-14.28%	×
11	事務用品		%	グリーン購入法適合商品購入率の把握	42.09%	42.09%	○
12	車両・設備・機械等			購入の際は環境性能面を検討する	検討した	検討した	○
13	会社周辺の清掃活動			会社周辺の清掃活動の実施	実施した	実施した	○
14	環境保護団体への協力			環境あきた県民フォーラムへの協力	実施した	実施した	○

各取組内容と評価

No. 1 二酸化炭素全量を基準期間より 2%削減する。

二酸化炭素全量については、目標に対して+11.6%増加と目標を達成できなかった。重機やトラックの増加や、受託した産業廃棄物の量が基準期間を大きく上回ったこと等が要因と考えている。産業廃棄物の受託量は制限できないので、原単位での二酸化炭素量を減らすなど目標の設定から見直したい。

No. 2 電力使用量を基準期間より 30%増に留める。

電気使用量については、増加を想定していたが、+43.9%増加と想定以上の増加となっていました。基準年度期間後(令和 6 年 7 月)に工場内で大幅な電気工事を行ったことが原因であり、廃棄物受託量増加も相まって想定以上に電力を使用したことになった。令和 7 年の 6 月までは前年よりも使用量の増加が見込まれるが、目標の設定はそのままとし、次年度以降の基準としていきたい。

No. 3 ガソリン使用量を基準期間より 3%削減する。

ガソリンの使用量については、-11.11%減少と目標を達成できた。

営業車でのみ使用だが、営業先によって使用量が大きく変動する。短期間の集計ではバラつきがあると思われるために、目標設定は変えずに次回以降は年間単位の比較で評価したい。

No. 4 灯油使用量を基準期間より 2%削減する。

灯油使用量は-45.36%減少と目標を達成できた。

設定温度の低め調整や、不在時の電源オフ等の従業員の意識は変わったが、ここまで変わるものではないと思う。短期間の温暖気候の可能性もあり、目標設定は変えずに次年度以降でも評価したい。

No. 5 軽油使用量を基準期間より 3%削減する（車両）。

収集運搬車両による軽油使用量については、+16.44%増加と目標を達成できなかった。車両の増車があったことと、県外の収集運搬業務が増えたことが使用量増加の原因になっている。軽油使用量は、受託した産業廃棄物量に連動するため、原単位での数量削減目標を設定したい。

No. 6 軽油使用量を基準期間より 3%削減する（工場）。

中間処理場の軽油使用量については、+10.78%減少と目標を達成できなかった。発電機の撤去による使用量減少よりも、産業廃棄物の受託量増加に伴う使用量増加、並びに重機の増車による使用量増加が多かった結果となった。

No. 5 同様にこちらも受託した産業廃棄物の量に連動するため、原単位での数量削減目標を設定したい。

No. 7 LPG の使用量を 1%削減する。

LPG の使用量は 3.84%増加と目標を達成できなかった。LPG の使用は全て湯沸かし器によるもので、用途は茶碗等の洗浄が主となる。

使用量が少量なため、バラつきがあるとは思いますが目標設定は変えず次年度以降評価していきたい。

No. 8 一般廃棄物排出量を 5%削減する。

25%と大幅増になってしまった。原因は再生不可なマニフェストをまとめた量で廃棄したことが主な原因となった。今後も目標設定は変えずに環境活動計画を意識して行動、評価していきたい。

No. 9 受託した産業廃棄物のリサイクル率を 1%向上する。

+0.41%と目標達成には至らなかった。原因としては、主に当社で現状再生困難な枕木の受託量が集計期間内で増加したこと。また、プラスチックの分別を目視に頼っていたためにリサイクルの精度が低かったこと、受託した産業廃棄物の中で重量比率が高く、リサイクル率の高いがれき類の受託量に大きく左右されること等が原因と考えられる。

受託する産業廃棄物の内容によって大きく左右される部分もあるが、その中でも出来ることを遂行していくためにプラスチックの分別に関しては特に力を入れていきたい。目標設定に関しては、このままとして次年度以降評価していきたい。

No. 10 上水使用量の使用量を 1%削減する。

14.28%の削減となったが、No. 7 の LPG と同様に、使用量が少なく、天気や気温等若干の変化により大きく変動する数値と思われる。目標設定は変えず、環境経営計画内容を意識しながら次年度以降評価していきたい。

No. 11 グリーン購入法適合商品の購入実績の把握

今期間はグリーン購入法適合商品(またはエコマーク認定商品)の購入率を把握する期間とした。様々な商品を購入する際にそれらを優先的に購入する意識ができた。

ただし、多少の高額な商品が対象外であり、やむを得ず購入すると率としては著しく低下するため、ある程度の集計期間は必要と感じた。

そのため次回集計期間も引き続き購入率の把握とし、より細かな基準値を求めることとする。

No. 12 車両・設備・機械等の購入時には環境性能面を検討する

今期間中に重機の購入があった。各メーカーのハイブリッド機も候補に挙がったが、メーカー曰く当社の作業スタイルでは充電する時間が少なすぎるため、ハイブリッド機よりも省エネ・環境性能に優れた現行モデルを購入した。

No. 13 会社周辺の清掃活動の実施

降雪前に会社周辺のゴミ拾いを行った。人数が少なくあまり広範囲は出来ないが今後も秋の降雪前と、春の雪解け後に定期的に取り組んでいきたい。

No. 14 環境保護団体(環境あきた県民フォーラム)への協力

昨年秋に環境あきた県民フォーラムに入会した。

<http://www.eco-akita.org/member>

2020 年燃費基準 100%達成建設機械の導入

[illegible]

地域周辺の清掃活動

4. 環境経営計画と達成状況、取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎：よくできた ○：まあまあできた ▲：あまりできなかった ×：できなかった

二酸化炭素の削減

電力による二酸化炭素削減

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
室温は、暖房期 19℃、冷房期 27℃で管理する。	○	暑さ寒さの極め時以外にはエアコンの適正使用が出来た。
定期的にエアコンのフィルターを清掃する。	◎	シーズン終了時に清掃を行うことを意識した。
クールビズ・ウォームビズ	○	特定の場合を除いて達成できた。
LED 管への変更	▲	一部変更または新設。引き続き変更が必要。
不在時の消灯を心がける	▲	出入りにステッカーを張り意識を強化。まだたまに忘れてしまう。

ガソリン、軽油使用量の削減

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
エコ運転の教育研修	▲	機械からの警告通知により過剰な運転を制限している。教育は期間内実施できなかった。
アイドリング停止の徹底	◎	機械からの警告と個人の意識により達成
運搬効率の向上	○	往路だけでなく復路の運搬も計画し、なるべく無駄のない運行経路を計画した。
低燃費車両への入替	◎	重機の入替時に、低燃費のものを採用した。

その他化石燃料の削減

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
石油ストーブのエコ運転を心がける	○	エコ運転モードを使用している。
断熱作用のあるフィルムを窓等に貼り付ける	×	未達成。次回までに貼り付けることとする。
不在時の使用を控える	○	出入りにステッカーを張り意識を強化。

廃棄物の削減

一般廃棄物の削減

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
分別のルール確立と周知徹底	◎	種類ごとに置場を作りステッカーにて周知している。
コピー用紙削減	○	両面コピー・裏紙利用の徹底をしている。
電子マニフェストの普及推進	▲	顧客の同意が得られないことがある。
書類の電子化推進	×	まだ浸透できていない。
一般廃棄物の排出量記録	◎	品目ごとに記録している。

産業廃棄物の適正管理

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
保管場所の管理	◎	保管数量と保管期間、保管場所の状態を毎日確認している。
マニフェスト・契約書類の管理	◎	廃棄物の処理期限の遵守や、契約内容の確認を行う。
委託先の状況確認	○	定期的に処分委託先に訪問し、処理場の状況や情報交換をしている。

受託・産廃関連

リサイクル率の向上

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
従業員の工場見学	×	分別方法や処理方法を見学に行かせたい。(未達成)
簡易なプラスチックの判別機械の導入	◎	簡易プラスチック判別機械を購入し選別の精度を上げる。
中間処理の方法の追加（溶融固化、造粒）	◎	減容・再資源化設備を導入予定（発注済）

水

水道使用量・地下水使用量の削減

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
トイレの流水量の調整	▲	簡易水洗式トイレがあり、目標の達成状況が分からなかった。 要検討項目
手洗い時の節水	◎	節水意識向上のステッカーを張り、啓発の意識を持たせた。
スプリンクラーを使用する（地下水）	◎	埃が舞わない程度の散水にはスプリンクラーを使用した。

グリーン購入法適合商品

適合商品の購入推進

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品の選定	○	購入時にはなるべく GPN 商品を優先する。
事務消耗品のエコ商品購入率の把握	◎	今期間は購入率の把握を行い次年度以降の基準値とする。
機械等購入時のルール確立	○	機械購入時の優先順位を決めた。

その他 地域貢献 SDGs 関連

適合商品の購入推進

目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
環境保護団体への協力	◎	環境あきた県民フォーラムへ入会した。
会社周辺の清掃活動	○	会社周辺のゴミ拾いを行った。

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認

適用される法規制	適用される事項	違反の有無
消防法	再生品（燃料チップ）の取り扱い届出	無
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	主に産業廃棄物の収集運搬業許可及び処分業許可、産業廃棄物処理施設設置許可等	無
フロン排出抑制法	エアコン、重機の簡易点検	無
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引き渡し	無
家電リサイクル法	使用済み該当製品の引き渡し	無
建設リサイクル法	解体工事業	無
オフロード法	フォークリフト、油圧ショベル、ホイールローダ	無

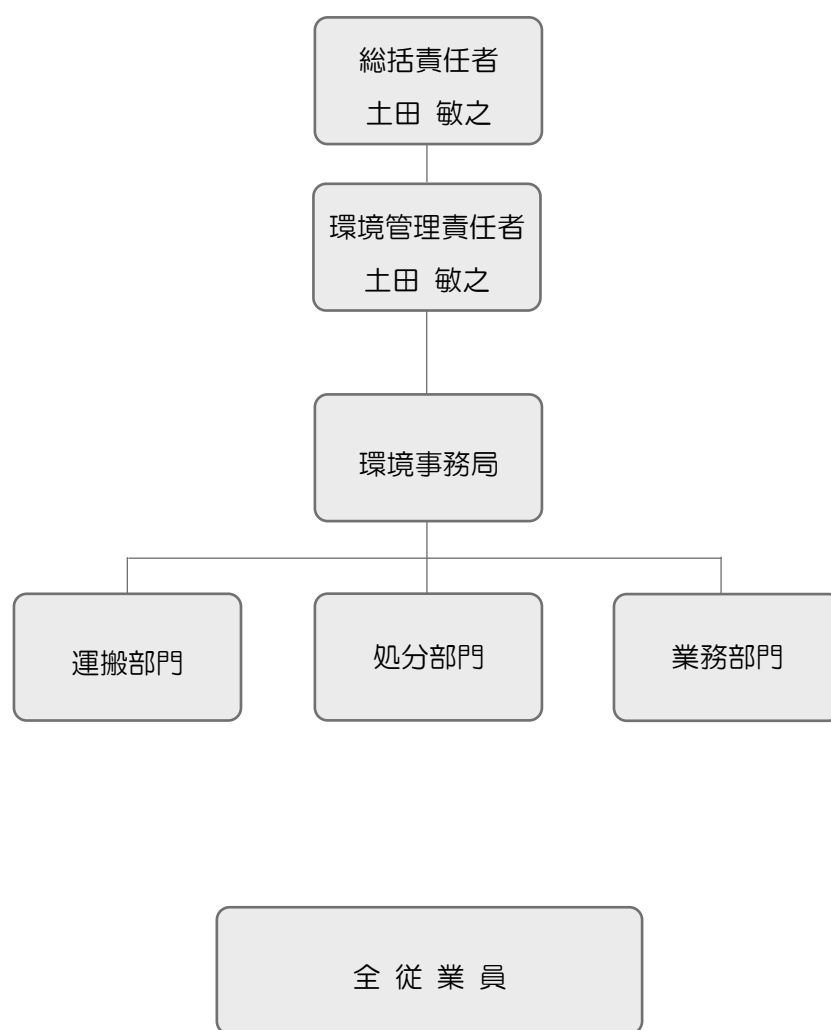
創業以来、苦情や法令違反、訴訟はありません。



事業場入口

6. 環境経営システムの推進体制

(1) 体制図



(2)主な担当役割と責任及び権限

役 割	責 任 及 び 権 限
代表者	環境経営に関する統括責任 経営における課題とチャンスの整理・明確化 実施体制の構築（人、設備、時間、費用等） 環境経営方針の策定及び見直し 環境経営目標・環境経営計画書の承認 全体の評価と見直しの実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	環境経営システムの構築 環境関連法規等の取りまとめ表の承認 環境経営目標・環境経営計画書の承認 環境経営計画の取組結果の確認、報告 環境経営レポートの報告
環境事務局	環境管理責任者の補佐、環境・安全衛生委員会の運営 環境への負荷の自己チェック、環境への取組の自己チェックの実施 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び遵守評価 環境経営目標・環境経営計画書の作成 環境経営計画の実績集計及び環境経営レポート作成、公開 環境関連の外部コミュニケーション窓口及び 内部コミュニケーションの実施 緊急事態訓練の実施 環境教育訓練の実施
運搬 処分 部門長 業務	環境経営システムの実施及び環境経営方針の周知 従業員に対する教育訓練の実施 環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書の作成及び達成状況の報告
全従業員	環境経営方針の理解 積極的な環境経営計画への参加

7. 次年度以降の環境経営目標

次年度の環境経営計画

基準期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

集計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

No.	環境目標項目	基準期間実績値	単位	環境目標	集計期間目標値
1	二酸化炭素全量（原単位）	13.80	Kg-CO ₂ /t	受託した廃棄物1t当たりのCO ₂ 削減量を5%削減する	13.11
2	電力使用量	29,778	kWh	使用量を30%の増加に留める。	38,711
3	ガソリン使用量	2,558	L	3%削減する	2,481
4	灯油使用量	1,890	L	2%削減する	1,852
5	軽油使用量（車両）（原単位）	4.15	L/t	受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を3%削減する	4.02
6	軽油使用量（工場）（原単位）	5.67	L/t	受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を3%削減する	5.50
7	LPG 使用量	12.6	m3	1%削減する	12.47
8	一般廃棄物排出量	180	kg	5%削減する	171
9	受託した産業廃棄物のリサイクル率	95.97	%	1%向上する	96.97
10	上水使用量	32	m3	1%削減する	31.7
11	事務用品	63.11	%	エコ商品購入率の5%向上	68.11
12	車両・設備・機械等	検討		購入の際は環境性能面を検討する	検討
13	会社周辺の清掃活動	年2回		会社周辺の清掃活動の実施	継続

環境経営計画の中長期目標

2024年度～2026年度(令和6年4月1日～令和9年3月31日)

No.	環境目標項目	基準期間実績値	単位	中長期環境目標	集計期間目標値
1	二酸化炭素全量（原単位）	※	Kg-CO ₂ /t	受託した廃棄物1t当たりのCO ₂ 削減量を2024年度実績値より5%削減する	※
2	電力使用量	※	kWh	2024年度実績値より5%削減する。	※
3	ガソリン使用量	2,558	L	2023年度実績値より5%削減する	2,430
4	灯油使用量	1,890	L	2023年度実績値より5%削減する。	1,795
5	軽油使用量（車両）（原単位）	※	L/t	受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を2024年度実績値より5%削減する。	※
6	軽油使用量（工場）（原単位）	※	L/t	受託した廃棄物1t当たりの軽油使用量を2024年度実績値より5%削減する。	※
7	LPG 使用量	12.6	m3	2023年度実績値より5%削減する。	12
8	一般廃棄物排出量	180	kg	2023年度実績値より10%削減する。	162
9	受託した産業廃棄物のリサイクル率	95.97	%	2023年度実績値より3%向上させる。	98.97
10	上水使用量	32	m3	2023年度実績値より5%削減する。	30
11	事務用品	63.11	%	エコ商品購入率の10%向上	73.11
12	車両・設備・機械等	検討		購入の際は環境性能面を検討する	検討
13	会社周辺の清掃活動	年2回		会社周辺の清掃活動の実施	継続

※は2024年度末の実績値確定後に設定。

目標の見直しについて

No.1 については、営業活動に見合った目標に切り替え、原単位での CO2 排出量の削減に切り替えることにする。

No.2 については、この 1 年間で設備の入れ替えが複数回あり(7 月と 11 月)、大幅な増加が予測されるため、目標を引き続き 30%の増加に留める。

No.5 及び 6 についても、営業活動に見合った目標に切り替え、原単位での軽油使用量削減に切り替えることにする。

中長期の目標に関しては、電気使用量や軽油使用量については 2024 年度の使用量が基準になると思われるため、2024 年度終了後に数値を確定する。

8. 次年度の環境経営計画

二酸化炭素の削減

電力による二酸化炭素削減

目標	備考
室温は、暖房期 19℃、冷房期 27℃で管理する。	継続
定期的にエアコンのフィルターを清掃する。	〃
クールビズ・ウォームビズ	〃
LED 管への変更	〃
不在時の消灯を心がける	〃

ガソリン、軽油使用量の削減

目標	備考
エコ運転の教育研修	継続
アイドリング停止の徹底	〃
運搬効率の向上	〃
低燃費車両への入替	〃

その他化石燃料の削減

目標	備考
石油ストーブのエコ運転を心がける	継続
断熱作用のあるフィルムを窓等に貼り付ける	〃
不在時の使用を控える	〃

廃棄物の削減

一般廃棄物の削減

目標	備考
分別のルール確立と周知徹底	継続
コピー用紙削減	〃
電子マニフェストの普及推進	〃
書類の電子化推進	〃
一般廃棄物の排出量記録	〃

産業廃棄物の適正管理

目標	備考
保管場所の管理	継続
マニフェスト・契約書類の管理	〃
委託先の状況確認	〃

受託・産廃関連

リサイクル率の向上

目標	備考
従業員の工場見学	継続
簡易なプラスチックの判別機械の導入	〃
中間処理の方法の追加（溶融固化、造粒）	〃

水

水道使用量・地下水使用量の削減

目標	備考
手洗い時の節水	継続
スプリンクラーを使用する（地下水）	〃

グリーン購入法適合商品

適合商品の購入推進

目標	備考
グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品の選定	継続
事務消耗品のエコ商品購入率の把握	〃
機械等購入時のルール確立	〃

その他 地域貢献 SDGs 関連

適合商品の購入推進

目標	備考
環境保護団体への協力	継続
会社周辺の清掃活動	〃

※次年度の環境経営計画は、トライアル期間と引き続き殆ど同じ目標を掲げるものとなりました。（簡易水洗のトイレ流量のみ削除）

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度より、当社でもエコアクション 21 の取得に向け、環境に関する方針や目標を自ら設定し、達成に向けての取り組んでいくこととしました。

今回の集計期間内においては、大幅な電気設備の増減や、車両・重機の増加があったために、電気使用量や軽油使用量については環境経営計画の実行状況を数字で実感することは難しかったかもしれませんが、他の項目については、トライアル期間とはいえ行動や数字で効果を実感出来たことが少なくないと思われました。

今回目標を設定した二酸化炭素の削減に関しては、売上（中間処理量）に比例していくと思われるため、経営目標としては不適と判断しました。今後は目標を変更し、受託した産業廃棄物 1t 当たりの二酸化炭素量の削減を目標としていきます。

加えて今後も、次年度に計画中のプラスチックの減容機によるリサイクル率の向上及び運送コスト削減や、収集運搬時の効率的な経路の選定を主として環境負荷低減に向けた取組みをしていきます。

導入予定の減容機たち

